

議題	第 14 回運営推進会議
日時	2025 年 2 月 20 日 (木) 10:30~11:15
場所	デイサービス山風木
出席者	<p>(順不同敬称略)</p> <p>三島包括支援センター K 様</p> <p>デイサービス山風木利用者様ご家族 O 様(奥様)、H1 様(奥様)、H2 様(娘)</p> <p>デイサービス山風木センター長 渡部浩考</p> <p>デイサービス山風木統括 渡部美保子</p> <p>デイサービス山風木主管 宇佐見恵子</p> <p>デイサービス山風木サブリーダー 中沢真理</p> <p>(議事録作成者) 渡部浩考 (議事進行者) 渡部美保子</p>
会議の詳細	
<ul style="list-style-type: none"> ● ごあいさつ (センター長 渡部浩考) ~出席者のご紹介、本会議の趣旨 (目的) について~ 家族会に近い形で情報交流ができればと思っています。 ● デイサービス山風木の運営状況 (センター長 渡部浩考) 年末年始はインフルエンザ等でお休みされる方もいるので、実稼働率は 90%程度です。 →定員 12 名に対して平均 10-11 名ぐらゐの利用となっています。 ● 事業所としての活動 (センター長 渡部浩考) ・BCP (事業継続計画)、ハラスメント、虐待の研修や実習などを行っています 介護事業所がブラックボックス化して外部の方からの信頼が損なわれないように、社会全体で懸念されるような事象について、しっかりと研修や話し合いの場を持つようにしています。 ● 日常の話題作りと地域 (統括 渡部美保子) 山風木の周辺地域の紹介や、利用者と地域の関わりについて説明がありました。地域の商店や名所との関わりを通じて、利用者が安心して過ごせる環境を提供していることが共有されました。 ● デイサービス山風木の活動 (サブリーダー 中沢真理) 写真を使って最近の活動が紹介されました。利用者が参加したイベントや活動内容について、具体的なエピソードと共に報告されました。各種活動や季節ごとのイベント、地域の行事参加など、多岐にわたる活動が紹介されました。 	

<事業所として大切にしていること>

統括 渡部美保子

話しやすい環境作り

話しやすい環境を作るために話し方、聞く姿勢、話しやすい仲間、相性の良い人などの重要性。騒がしすぎない環境や静かすぎない環境のバランスの大切さ。

伝える技術

認知症の方への伝え方の工夫（ゆっくり話す、身振り手振り、表情の変化など）。

言葉にならない言葉を汲み取ることの重要性と、そのための工夫。

行動の促し

急かさず強制しないで行動を促す方法について。

社会との繋がりを持ってもらうための活動の例（外出や社会活動）。

<その他情報交換>

統括渡部美保子から家族が抱える課題について意見交換のご案内

高齢者の意思疎通の難しさ

利用者が自身の思いを言葉で表現しなくなる状況を避けるため、話しやすい環境づくりが重要だと意見が出ました。具体例として、身振り手振りや声のトーンを落とすことが挙げられました。

日常生活の支援

お風呂や排泄の介助に関する困難さが議論されました。1つ1つの行動を丁寧に伝えることが大切だと共有されました。

社会との繋がり

利用者が外出し、社会との関わりを持つことの重要性について意見交換がされました。外出時に利用者が昔の知り合いに会うことがあり、それが社会との繋がりを維持する一助となっているとの事例が紹介されました。

ショートステイの活用

ショートステイ利用時の課題についても議論されました。利用者が施設に馴染むのに時間がかかることや、頻繁に場所が変わることのストレスが指摘されました。

介護者の負担

家族からは、介護者としての負担についての意見も出ました。特に皮膚科への通院や、介護用品の利用に伴うトラブルなどが挙げられました。また、買い物や通院時に利用者が一緒に

来たがることへの対処法についても話し合われました。

ショートステイの認識

O 様妻は夫がショートステイの概念を理解しないため、その説明が難しいと話しました。ケアマネージャーが訪問時に説明することが提案されました。

入浴介助の課題

H2 様娘様から、母親が入浴介助を嫌がるため、対策として荷物の準備や言葉掛けの工夫が必要だとの意見がありました。無理に入浴させることの危険性や、家族の負担軽減についても議論されました。

日常生活の工夫

H1 様妻から、髭剃りや歯磨きなどの日常のケアを行う際の工夫や、家族のサポートが重要であることが話されました。また、家族同士の情報共有の必要性が再確認されました。

家族間の連携

H1 様妻は、家族間での連携が大切であると話し、家族全員が同じ方向を向いてケアすることが求められるとの意見が出ました。

周囲との関わり

O 様妻からは、ご近所や外出先の人々との関わりがあると、高齢者の日常が豊かになるとの意見がありました。特にテニスなどの趣味を通じた社会との接点が大切だとのことでした。

介護者の健康

渡部美保子統括から、介護者が健康であることが重要であり、介護者自身がリフレッシュする方法を探る必要性があるとの意見が出されました。また、介護者が健康でないと高齢者のケアが難しくなるとの指摘がありました。

地域包括支援センターから

K 様から、地域包括支援センターが行う活動や、認知症の方とその家族が参加できるイベントの紹介がされました。地域での支援活動が高齢者の生活の質を向上させる一助となることが強調されました。

統括 渡部

それぞれ環境や認知症の進行具合も異なりますが、他の家族のお話を聞くことで安心できたり、確認できたりすることがあると思います。そういった機会として今後も活用し

ただいただけるとよいと考えています。

次回は令和7年8月の開催を予定しています。本日はありがとうございました。